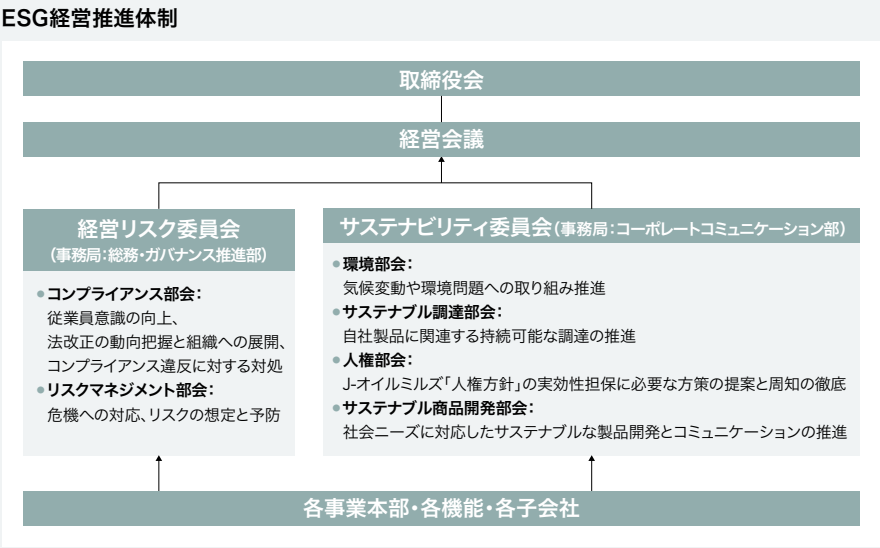


J-オイルミルズのマテリアリティ

推進体制

当社のサステナビリティと経営リスクについて、全社的に推進する社内体制の基盤として「サステナビリティ委員会」と「経営リスク委員会」を設置しています。ESG経営の関連施策について社内横断的な議論を進めるために設置されたもので、経営会議への指示・報告機能を有しています。

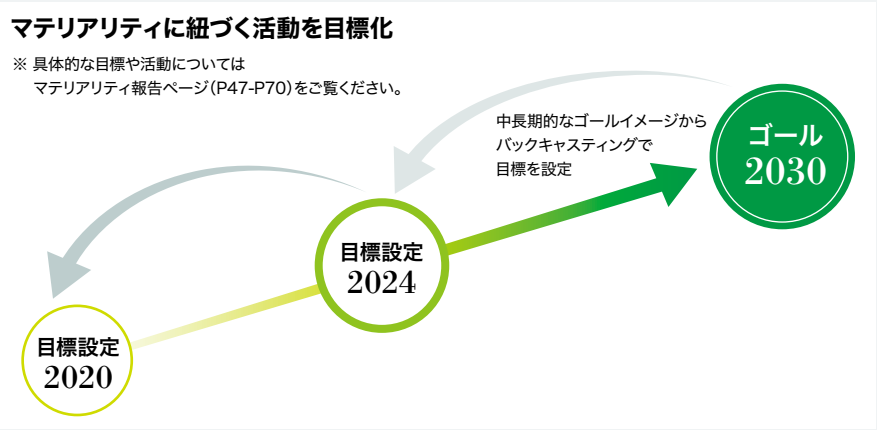


マテリアリティに関するこれまでの活動

2018 社内の各部門が1年かけて議論を重ね、課題の分析には外部の機関にも協力をいただき、当社が特に優先して取り組むべき課題案を絞り込んでいきました。
※ マテリアリティの詳細な特定プロセスについてはWEBサイトをご覧ください。
<https://www.j-oil.com/sustainability/materiality/process.html>

2019 2019年5月の取締役会でマテリアリティを決定し、2020年2月の執行役員が参加する事業計画検討会にて事業計画との統合を開始しました。

2020 事業計画と各部門の活動にマテリアリティを統合し、各課題について責任者を決定しました。また各マテリアリティに紐づく活動内容について目標を定め、目標に対する取り組み、活動状況や各課題を議論しました。



2021 新たな企業理念体系の制定にともない、企業理念体系と、目指すべき未来を示したJoy for Life® Mapに照らし合わせ、マテリアリティの見直しを実施。

関連ページ
Joy for life MapはP6をご参照ください。

マテリアリティの深化

2021年4月、新たな企業理念体系(ビジョン・ミッション・バリュー/パーパス)の制定にともない、企業理念体系と、目指すべき未来を示したJoy for Life® Mapにマテリアリティを照らし合わせ、関連部門との議論を行いました。当社が大切にしたい想いや社会課題の解決に対する各部門の活動などを新たに融合させ、経営会議での承認を経て、新たなマテリアリティを特定しました。

マテリアリティは、当社の事業にとってリスクまたは機会となる事項であり、2030年度の目指すべき姿に向け、中長期的に取り組むことを目指しています。なお、特定したマテリアリティは、今後も社会の潮流や、課題・ニーズの変化を踏まえて定期的に見直しを行っていきます。

旧マテリアリティ			
あふらと食の多様な価値を創造 ● 食の安心・安全 ● 顧客満足の追求 ● おいしさと健康の創造 ● 社会課題の解決に貢献する製品の提供・開発	社会と地球への貢献 ● 持続可能な資源利用 ● 気候変動の緩和と適応 ● サプライチェーンマネジメントの強化 ● ステークホルダーとのコミュニケーション強化 ● 地域社会への貢献と協働	個性を高め合い成長し合う組織づくり ● 働き方改革の推進 ● ダイバーシティ&インクルージョン ● 人財育成 ● 健康経営の推進 ● 企業風土の改革	経営基盤強化 ● コーポレートガバナンスの強化 ● リスクマネジメント強化とコンプライアンスの推進

新たに特定したマテリアリティと取り組みテーマ			
 環境負荷の抑制 ● 資源・耕作地の持続可能性担保 ● 顧客の作業・業務負荷の低減に貢献 ● 気候変動の緩和と適応	 食資源の維持 ● たんぱく質危機対応 ● フードロス削減と安定供給 ● 畜肉・水産資源の保持 ● 食の安心・安全	 食を通じた健康への貢献 ● 健康維持への貢献 ● 高齢化社会対応 ● ライフスタイルの多様化 ● 栄養摂取・管理への貢献	 事業継続基盤 ● コーポレートガバナンスの強化 ● リスクマネジメントの強化 ● コンプライアンスの推進 ● サプライチェーンマネジメント ● ダイバーシティ&インクルージョン ● 働き方改革&エンゲージメント ● 企業風土・意識改革 ● 地域社会への貢献と協働 ● 適時適切な情報開示

NEW MATERIALITY